

日本農学アカデミー設立記念シンポジウム 「21世紀の農学のビジョン」について

学術情報委員会委員長 中井弘和

シンポジウムの要領

日本農学アカデミーの設立からほぼ半年後の1999年6月2日に、その設立を記念して、以下の要領で開催された。

日時：平成11年6月2日（水）午後1時30分－4時30分、場所：日本学術会議講堂、主催：日本農学アカデミー・国立大学農学系学部長会議・日本学術会議第6部、後援：農林水産技術会議事務局、総合司会：岡野健（日本学術会議第6部会員）、あいさつ：「日本農学アカデミーについて」長堀金造（日本農学アカデミー副会長、日本学術会議第6部部長）、基調講演：「生物生産と環境」佐々木恵彦（日本農学アカデミー会長、日本学術会議副会長）、パネル討論：「21世紀の農学のビジョン」パネリスト：丸本卓哉（山口大学農学部教授）、山崎耕宇（日本学術会議第6部副部長／東京農業大学生物産業学部教授）、都留信也（元熱帯農業研究センター所長／日本大学生物資源科学部教授）、コーディネータ：中井弘和（日本農学アカデミー副会長／静岡大学農学部教授）

シンポジウムの内容

（1）テーマについて

地球環境を守りながら、人類の食料を確保していくことは可能なのか？ 地球規模で考える時、先ずこの未曾有のしかも緊急を要する課題に行き当る。国内的にも、食料自給率の問題、農業後継者の問題等、農業を取り巻く深刻な問題が山積している。農学は、このような人類の生存にかかわる国際的および国内的課題に、どのように貢献していくのか？ 今、農学の在り様が深刻に問いかけられている。

このような時期に、丁度時を同じくして（平成8－9年）、国立大学農学系学部長会議、日本学術会議第6部、農水省農林水産技術会議で、それぞれ農学に関わる新しい時代へのビジョン、「21世紀の農学のビジョン」、「21世紀へ向けての新しい農学の展開」、「農林水産研究基本目標」を作成している。

日本農学アカデミーの船出に際して、これらビジョン作りに関与した3人のパネリストを中心にして、新しい時代の農学のビジョンを描こうということになった。

（2）基調講演

佐々木恵彦日本農学アカデミー会長による基調講演「生物生産と環境」では、会長が主催する「東アジアにおける地域の環境に調和した持続的生物生産技術開発のための基盤研究」の豊富な研究成果を踏まえて、興味あるエピソードを織り込みながら、次のような多くの有意義な提案がなされた：①人間活動を含めて環境を考えることの重要性、②農業・水産業・林業そのものも環境破壊に加担したという農学者の自覚も必要、③地球上の有機

物の流れ－物質循環を視野に入れた農業体系の構築の必要性（例えば、森が栄えれば川が栄え水田が栄えるといった考え方が必要）、④地域環境の修復と持続的生産方法の開発の重要性、⑤全体的（ホリスティック）にものを見る視点の重要性等。

（3）パネル討論

パネリストの丸本氏は、大学人として主に農学教育を考える立場から農学部改革も視野に入れながら、山崎氏は学術会議第6部の議論に基づいて主に農学研究の手法や方向性に焦点を当て、また、都留氏は農水省で新農業基本法など農業施策立案に関わった経験等を土台にして、それぞれ21世紀の農学のビジョンについて意見表明をし活発な討論が行われた。

その中で特に、①農学研究が実験室の分析的手法に偏る状況を踏まえ、エコロジカルな視点を重視するフィールドワークの再構築の重要性が強調され、その研究手法をめぐって議論が展開されたこと、②農学の枠組みの拡大の重要性。農学と工学・医学・理学等他分野ともっと積極的に連携しながら、さらに農学独自の研究・パラダイムを創造していくことの必要性が強調されたこと、③新しい時代に向けて、バイオテクノロジー利用の在り方について技術的のみならず生命倫理の観点からも議論を深めていく必要性が認められたこと、④新農業基本法を視野に入れた、すなわち食料自給率の増加も視野に入れながら人のくらしといのちの安全を確保する、農学教育研究の重要性とその施策について論じられたこと等が印象的である。

会場からも積極的、有意義な意見が多く出され、充実した討論ができた。

シンポジウムの成果

当日、会場には、大学、研究所・試験場、民間企業等から100名余の人々が集まり、基調講演・パネル討論に積極的に応えて、会場から多くの質問や意見が出され、21世紀の農学の在り方について多くの貴重な提案が出された。熱のこもった、日本農学アカデミー設立を記念するにふさわしいシンポジウムになったと評価している。

このシンポジウムを通じて、農学は、地域や地球環境を修復し、持続的な衣食住資源の生産の場を創造するとともに、その場は人が生活し、文化を育む場でもある故、人間の在り方（生き方）の問題にも深く関わる分野であることが認識された。そして、人間生存の根幹に深く関わる農学の重要性は、今後新しい時代に向かって益々増大することが確認されたことは大きな成果であった。

今後は、本シンポジウムの結果を踏まえて、さらに具体的に論議を深めていきながら、本アカデミーとして世界および日本の各界に新しい時代における農学の重要性を訴えていくこととなった。なお、本シンポジウムの詳細については報告書を作成して公表する予定である。